

2022.07.17. 虐げられた者への希望

ヤコブの手紙 5 章 1～6 節

JD ファラグ牧師

それでは始めます。日曜日の朝は、「ヤコブの手紙」を節ごとに学んでいて、主の御心なら、今日の聖書箇所は、5 章 1 節から 6 節までです。これは大変な箇所ですよ。先に読まれている方は、どういう内容かもうお分かりだと思います。では、可能な方はご起立をお願いします。私が読みますのでついてきてください。無理な方は着席したままで結構です。ヤコブが聖霊によって書いています。5 章 1 節、

**ヤコブ 5**

**1 金持ちたちよ、よく聞きなさい。迫り来る自分たちの不幸を思って、泣き叫びなさい。**

**2 あなたがたの富は腐り、あなたがたの衣は虫に食われ、**

**3 あなたがたの金銀はさびています。そのさびがあなたがたを責める証言となり、あなたがたの肉を火のように食い尽くします。あなたがたは、終わりの日に財を蓄えたのです。**

**4 見なさい。あなたがたの畑の刈り入れをした労働者への未払い賃金が、叫び声をあげています。刈り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。**

翻訳によっては、"安息日の主"と訳しています。それについては、後ほど詳しく説明します。

**5 あなたがたは地上でぜいたくに暮らし、快樂にふけり、屠られる日のために自分の心を太らせました。**

**6 あなたがたは、正しい人を不義に定めて殺しました。彼はあなたがたに抵抗しません。**

祈って締めくくりましょうか。それとも.....? 祈りましょう。

天なる御父よ...わお... 主よ、私はこう言って祈りながら思います。私が牧師の特権に与るこの教会の礼拝で、今、聖霊によって理解する目を与えて頂き、今日私たちの前にあるこの箇所で、あなたが私たちに何を教え、導き、見せられたいのかを教えてください。それが切実に必要で、それに異議を唱える人は一人もいません。

主よ、あなたのすべての御言葉は、理由があってここにあります。だからこそ、私たちはここにいます。

私たちは、なぜあなたがヤコブに、これを書かせたのか、それがこんにちの私たちの生活にどのように適用されるのかを知りたいのです。

主よ、御言葉を通して私たちの人生にお語りください。

主よ、お語り下さい。あなたのしもべたちは聞いています。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

ご着席ください。ありがとうございます。それでは、抑圧者に詐取され、富を取られ、そのせいで苦しむ人々が、なぜ実際は希望を持てるのかをお話ししたいと思います。というのは、ヤコブは、その当時、根強くあった問題を、かなりズバッと取り上げているからです。それは、現代にも根強く残る顕著な問題で、特に、不正な利益を得るため、貧しい人々から搾取し、利用しようとする者の問題だと言わせて頂きます。さて、本題に入る前に、これは非常に重要なことですが、これは裕福になるためのものではないのを指摘しておきます。どうやって豊かになるかであり、言い換えると、富を持つことは全く悪いことではありません。問題は、富を持つ事が、あなたを支配する場合です。それが問題なんです。ここで取り上げられているのは、その点です。ところで、2～3 前置きしておきますが、アリマタヤのヨセフは非常に裕福な人でした。彼は救い主の遺体を葬るため、自分の墓を提供したほど裕福な人です。裕福であるのは何も悪いことではありません。ソロモンに尋ねてみてください。実際、ソロモンに聞いてはいけません。

富はソロモンにとって良い結果にはなりませんでした。裕福であることは、なにも悪いことではありません。富を持つことは悪いことではありません。問題は、富があなたを所有する時です。あなたが何を所有するのかわけなく、何があなたを所有するかです。イエスが天国と地獄の組み合わせよりも、お金、富、財産についてもっとたくさん話されたことを知ったら皆さんは驚くかもしれません。知っていましたか？ イエスは、お金について多く語られました。実際、イエスはお金や富や財産について、他の何よりも多く語っておられます。これが問題である、という印象を受けますか？ そうなんです。お金そのものは中立で道徳的です。お金を使って不道徳なこともできるし、道徳的なこともできます。お金ではなく、そのお金を使って何をするか、あるいは、この本文文脈では、追求する中どうやってお金を得るのかということです。「マタイの福音書6章」大変有名な箇所、「山上の垂訓」に注目していただきたいと思います。私は愛情を込めて「価値の説教」と呼びます。ここで主が本当に語っておられるのは、そのことだからです。「マタイの福音書6章19節」イエスが仰ったことを聞いてください。

#### マタイ 6

**19 自分のために、地上に宝を蓄えるのはやめなさい。そこでは虫やさびで傷物になり、盗人が壁に穴を開けて盗みます。**

**20 自分のために、天に宝を蓄えなさい。そこでは虫やさびで傷物になることはなく、盗人が壁に穴を開けて盗むこともありません。**

**21 あなたの宝のあるところ、そこにあなたの心もあるのです。**

注意してください。逆ではありません。「あなたの心があるところに、あなたの宝もある。」ではありません。「あなたの宝があるところ、それがあなたの心があるところ」です。これは当時、中東の文化でよく知られていた慣用句で、勿論、アラブ人である私の文化でもです。悪意ある目。イエスは続けて仰いますが、これを仰ったとき、彼らはすぐ理解したことでしょう。

#### マタイ 6

**22 からだの明かりは目です。ですから、あなたの目が健やかなら全身が明るくなりますが、**

**23 目が悪ければ全身が暗くなります。ですから、もしあなたのうちにある光が闇なら、その闇はどれほどでしょうか。**

そしてイエスはこう仰います。とても有名な御言葉です。

**24 だれも二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方を愛することになるか、一方を重んじて他方を軽んじることになります。あなたがたは神と富とに仕えることはできません。**

注意してください。イエスは、こうは仰っていません。「すべきでない。」とか、「しない方が得策。」とかそうではなく、「できないのです。不可能です。」どちらかです。どちらか一方なんです。神に仕えて、神に献身するか、富に仕えて、富に献身するかです。あなたの主人は誰ですか？ あなたの宝はどこにありますか？ イエスがここで仰っていること全てが2つです。自分のために宝を積む場所は2箇所あります。地上か、天か。目をやるのは2つ。光か、闇か。そして、主人は2人。神か、富かのどちらかです。選ぶのは私たちです。あなたは誰に仕えますか？ 裕福な人たち、あなたが尋ね、答えなければならないのは、この質問です。あなたが自分の事業を所有していますか？ それとも、その事業があなたを所有していますか？ 数々の「箴言」が思い浮びます。その多くは、富に関するこの原則を語っています。私たちは聖書から知っています。私たちの人生は、持っている物の豊かさで成り立つわけではありません。富に関する私の好きな「箴言」の一つで、もちろんだれも好きなのですが、特にこの「箴言」はとても絵

になります。基本的にはこのような感じです。

「富に執着するな。富は必ず翼をつけて、鷲のように天へ飛んで行く。」バイバ〜イ。(箴言 23:5 参照)  
月末前にお金がなくなった時の、給料のようですね？ つまり、富や豊かさは儂いものです。なぜ、それに仕えるのですか？ なぜ、それがあなたの主人なのですか？ なぜそれを追い求めるのですか？「第一テモテへの手紙 6 章 17 節」、使徒パウロはこう書いています。

## I テモテ 6

### 17 今の世で富んでいる人たちに命じなさい。...

つまり、裕福になっても、クリスチャンであることは可能です。しかし、ここにこの世で富んでいる人々への勧告、指導があります。

**...高慢にならず、頼りにならない富にではなくむしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置き、**

さて、この「第一テモテへの手紙 6 章」には、聖書の中で最も間違っ引用されている所があります。それがどれなのか、皆さん知っていますよね？「第一テモテ 6 章 9 節」から読みます。

## I テモテ 6

### 9 金持ちになりたがる人たちは、誘惑と畏と、また人を滅びと破滅に沈める、愚かで有害な多くの欲望に陥ります。

これがその聖句です。聖書で、最も間違っ引用される箇所です。

### 10 金銭を”愛すること”が、あらゆる悪の根だからです。...

お金自体ではなく、”お金を愛すること”です。

**...ある人たちは金銭を追い求めたために、信仰から迷い出て、多くの苦痛で自分を刺し貫きました。**

さて、先に進む前に解決しておきたい問題があります。その問題とは、これまでヤコブは明らかにキリストにある兄弟姉妹に向けて書いたということです。この手紙の中で、「兄弟姉妹、兄弟姉妹、兄弟姉妹」と繰り返し書かれています。しかし、ここで、「この人たちは救われていないと思う。そう思いませんか？あなたの肉は火で焼き尽くされる。そして、あなたが蓄えてきた金と銀が証言するでしょ。」

よく聞いてください。私たちは、今日の箇所にある金持ちの抑圧者たちに関する難しいテーマをより理解し、取り組む必要があります。なぜなら、これがそういうことだからです。これもそういうことだからです。「待ってください。それは私ではありません。なぜ、これを知る必要があるのですか？」なぜなら、未信者は、罪のない人々から詐取し、虐待し、さらには殺害することによって、巨額の富を蓄積しているからです。私が何を言いたいかわかりますか？ 後でこれに戻りますが、でも、本当にこれがその目的だと思います。そして、もしあなたが私のように、よく「なぜ？の質問」を尋ねる人なら、「神よ、なぜこれが私の聖書にあるのですか？ なぜあなたは、書き手にこれを書かせたのですか？」何か理由があるはずで、聖霊がヤコブにこれを書かせた理由は、このために苦しんでいるクリスチャンを励ますためだと、私は心から信じます。(JD 牧師拳手中)

さあ、全員の手が挙がるのでは？ 今、まさに起きていることですよ。これは今起きていることです。当時、彼らの上に起こっていました。もちろんもっと違う形でしたから、比較はできません。私たちは、違う世界に生きています。でも、これは今起きていることです。神がこう仰っているかのようです。

「金持ちの抑圧者の重みで押しつぶされているキリストの兄弟姉妹を励ましてほしいのです。最終決定権はわたしにあります。ああ、そう、彼らはこれで逃げ切れると思ってるのでしょ、それはありませ

ん。」このように、虐げられているクリスチャンが希望を持つことができる理由は、本文の中に2つあります。

第一に、神が最終的に仰る時、抑圧者がどうなるかということです。そう、神が最後の言葉をお持ちです。それが1節から3節で分かります。次に、4節～6節で、これらの抑圧者に何が起こるかだけでなく、なぜそれが彼らに起こるのか、非常に生々しく説明されています。これは実は、私たちが最近話してきたことと大変密接に関係があり、特に、「エレミヤ書」でエレミヤが非常に謙虚に、神に、「なぜあなたは悪人を栄えさせるのですか？」という質問をしていることと重なります。

「なぜあなたは、このような悪人たちに莫大な富を蓄積させ続けるのですか？ なぜ、悪人たちはこれほどまでに繁栄し、栄えているのですか？ なぜ義に歩む者が苦しんでいるのですか？ 理解出来ないのです。理に適いません。」

「詩編 73 編」、それについても話をしましたね。同じ質問を、詩篇の作者アサフが神に問いかけます。実際、興味深いのですが、アサフは非常に苦しく、富裕な抑圧者、この邪悪な人々が繁栄するのを見て、非常に辛い思いをしていました。彼は、教会にも行けないほどでした。つまりかせたくないの、誰とも話をしませんでした。「本当に悩んでいるので誰にも相談できないし、相手をつまづかせるのも嫌です。私は信仰の危機です。なぜなら、辻褄が合わないからです。なぜ？ どうして...？」より良い質問は、、、叫んでしまって、ごめんなさい。怒ってませんよ、本当に。「なぜですか？」もっと良い尋ね方は、「なぜ、彼らがこのまま成功し続けるのをあなたは許されるのですか？」なぜなのでしょう？ ここでヤコブが・・・私はまたしても言葉を失ってしまいました。第一礼拝でも起こったことで、それ自体奇跡です。言葉が出ない。彼らは逃れられません。神が対処されます。

「あなたは今に分かります。最後にどうなるか、今に分かります。」そこでまず、何が起こるのか、そして、なぜ起こるのかを見ます。1節から3節、何が起こるのでしょうか？ そうヤコブは、この金持ちの抑圧者たちが実際に何が起こるかを知っていたら、彼らは泣き叫ぶと、はっきり言います。彼らが泣き叫ぶのは、彼らの富が腐り、衣が虫に食われ、金銀がさびるからと説明しています。そのため、金銀のさびは彼らに不利に働き、彼らを責める証言となり、彼らの肉を火のように食い尽くす。ここで少し背景を説明します。お付き合いください。当時、服を二着以上持っていれば裕福とされていたことを理解しなければなりません。そして、どうやらこの人たちにはかなりの衣装持ちだったようです。想像してみてください、彼らがクローゼットを開けて、こう言ったとします。「着るものがない。それは先週着たし。」

彼らは服をたくさん持っていました。彼らの衣装ダンスを見るべきでしたね。興味深いのは、記されたこの詳細です。虫が彼らの服を食う。なぜ、それが興味深いのか？ 虫は、着ている服を食べないからです。もう一度言います。ダンスにしまってある服だけが、虫に食われます。金と銀を使つての話の方がよいかも知れませんね。金と銀がさびる。どうしてそうなったの？ いつからそうなった？ そこにおいて、積み上げていたのでしょうか。あなたがたは腐るほど富を蓄えてきた。あなたの自慢の衣類も、虫にやられ、台無しです。その金と銀は、、、ところで、これだけは言っておきたいのですが、こんな CM がありましたよ。ところで、もしこれがあなたがいる業界なら、神の祝福を。私たちはあなたを愛しています。それにしても、私はかなり困惑します。正直言って、「金や銀を買え、ドルを出せ。」と迫る広告ばかりです。

「待つて。私のお金が欲しいのですか？ それでゴールドをくれるの？ 私はお金はとっておこうと思います。なぜ、私のお金を狙ってるの？」「お～、あなたはお金のために金（ゴールド）が必要なんですよ。」「それで払ってるんですけど？」今日はあまり調子よくないですね。－(笑)－

「要点は？」と聞くより、たぶん、もっとよい質問は、「一体何が言いたいのか？」要点はありますよ。いいですか？これが彼らの主人で、彼らが仕えていたものです。彼らは、この富を得るために裁きの日に何の役にも立たないことをやっていたのです。今、思いついたのですが、聖霊だと思います。映画を参照にするのは嫌なのですが、よりよい例え話がないので。映画「タイタニック」で、大金持ちが誰かにお金を渡して、救命ボートに乗せてもらおうとする場面がありました誰も救命ボートを譲らなかった。そりゃそうでしょう！まさか、お金で浮かぶの？—(笑)—金貨をくれるって？底に沈むだけだと思うけど。それが何の役に立つの？彼らは、この富を築き上げたのです。今や、何の意味もない、今や、何の価値もない。しかし、どうやらあなたは、そのような物に価値を置いて、蓄えているようですね。それを得るためにあなたが行ったことに、神があなたに申し開きをなさいます。あなたの神はお金、あなたの神は富のようですね。あなたの神は、あなたが蓄えてきた物です。繰り返しになりますが、富を持つことは悪いことではありません。私が若い信者だった頃、34年前に妻に求婚しました。求婚……若い人たちにとっては、外国語みたいだと思います。あながたがのことで。もうデートとも言わないでしょう？どう呼ぶのか知らないし、どう呼ぶのか知りたくもありません。私の時代は、求婚と言ったんです。数年求愛して、妻に求婚したとき、私はメルセデス・ベンツ社に勤めていて、ベンツに乗っていたんです。自分の車ではありませんでした。入れるガソリンも買いませんでした。しかし、私は社用車で未来の花嫁を迎えに行きました。教会に車を停めました。革張りのシートで、今、脳の視床下部に、あの匂いが蘇ってきました。—(笑)—パロミノ（薄い金茶）色でした。そこにワインのような赤。ええ、今も思い出します。教会に着いたら、駐車スペースがありませんでした。それで、私は敬虔な者として、未来の花嫁が遠くまで歩かなくて済むように教会の前で車を止めて降ろし、駐車しに戻ったのです。男性方はそうしますよね？OK。失礼。駐車したら、ある男性が助手席側に来て、窓をノックしました。で、ちょっとだけ窓を開けました。そして私は「こんにちは？」私の知らない人でした。そして彼は言うのです。「兄弟、私を許して欲しい。」私は「どうしたのですか？」って感じです。彼曰く「私はあなたを裁いていた。」「何を言っているのですか？」彼曰く「私は自分に言い聞かせたのです。クリスチャンでありながら、あんな車に乗ってはいけません。心の中で、あなたを裁きました。」そこで私は、イエスの御名によって彼を叱責し、「下がれサタン」と言いました。いえいえ、私はこのことを決して忘れないでしょう。なぜなら、先週話したように、人間は外見で判断しますが、神は心を見て判断されます。私がこの兄弟に、こう言った時のこの兄弟のショックを想像してください。「兄弟、あなたには分からないでしょう。まず第一に、これは私の車ですらありません。この車の登録期限が来たときに、更新をする余裕もなかったのです。ガソリン入れるのがやっとでした。ガソリン代は会社持ちなのでよかったのですが。」私はただ、、それでかわいそうなことをしました。彼は悔い改めて、許しを求めているのです。そして、家まで運転しながら、「よくもまあ、私を裁いてくれたな！」—(笑)—ここから私のポイントです。神は、私たちが乗っている車や着ている服には気を留められません。心を見ておられます。ですから、こうなります。全部食べられて、腐っていきます。どうせ全部燃えるんですから。誰かが新車を手に入れると、私と親友は、いつもその人のところへ見に行き、もちろん完全に肉の人間ですから、私たちは彼らにこう言いました。「どうせ燃えるんだよ」と。—笑—ただ、私たちは気分が良くなりましたね。しかし、それは本当です。全部燃えてしまうんです。視野に入れておいてください。そんな物に信頼を置かないでください。そう、それが起こる事です。しかし4節から、ヤコブは方向を変え、「こういう罪を犯した者に何が起こるか」から「なぜそうなるのか」を述べます。まず注目ください。彼らは、労

働者に正当な賃金を払わず、搾取していました。これは大きな問題ですね。神がお気づきでないとは、一瞬たりとも思わないでください。「箴言」19章17節か、17章19節のどちらかだと思うのですが、次のようなことが書かれています。「貧しい者に施しをするのは、【主】に貸すこと。」そんな風に考えたことがありますか？ 彼らは貧しい人々を利用し、労働者から搾取していたのです。そして第二に、彼らは勝手気ままに贅沢をしていたのです。繰り返しますが、富を持つことが悪いのではなく、特に今の私たちがいるこの世の中では、家を二軒持っている人って、どうやって、、、一度に一箇所しか泊まれませんよね？ 気をつけて話さないといけません、そんな風に思われたくないのですが、それって自己満足です。また別の映画を参照にします。「シンドラーのリスト」です。この映画、覚えてますか？ ホロコーストのオスカー・シンドラーを題材にした実話です。忘れられない場面があるんです。私の心と体に、深く刻まれています。とても衝撃的でした。最後に、オスカー・シンドラーが出て来て、車に連れて行かれる場面です。自分の車に近づくと、彼はそのまま地に崩れ落ち、激しく泣き始めます。なぜか？ その車の価値で、もっと多くの魂を救えたはずだからです。わお～！ これは視点を変えます。繰り返しになりますが、それは富が悪いのではなく、その富をどう使うかです。そもそも、私たちのものではありませんよ。神のお金です。すべての所有者は神です。私たちは、主の所有されている物を託された管理人に過ぎません。私たちは何の所有者でもなく、神から与えられた物の管理人なだけです。与えるという才能を持っている人たちがいて、それは、実は神からの贈り物です。神が誰かに、“与える”という贈り物を下さるとき、同時に、“得る”という贈り物も一緒にセットされています。なぜなら、主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心をご自分と全く一つになる人々にご自分の栄光のために、御力を現わされます。(第二歴代誌 16:9)

神は全地を隅々まで見渡しこう言われます。「彼らをそこまで信用していいのか？ 彼らはそれをどうするつもりなのか？ ああ、与えてはいけないね。彼はヨットを買いに行くつもりだね。そうか、ではやめておこう。次！」「お～、彼は貧しい人々に与えるつもりだね。あの宣教師に渡すのだね。彼は自分の収入の初穂、その富で主を敬うのだね。」

キリスト教金融論の創業者、故ラリー・バーケットには、有名な格言がたくさんあります。その中の1つに、「クリスチャンのお金の扱いは、霊的なバロメーターだ。」なぜなら、小切手帳を見れば、そのクリスチャンのことがわかるからです。それはもちろん昔の実際に小切手手書き頃の話です。ちなみに私はまだそれを持っていますよ。彼らの小切帳を見てみると、彼らは、何にお金を使っているのか？ 多くのことが分かります。それは霊的なバロメーターです。お金をどう扱っているか、神から託された富をどう使っているかです。つまり、彼らは贅沢で勝手気ままな生活を送っているのです。労働者からお金を搾取して、どんどんむしり取っているのです。そして、どんどん惨めになっていきます。再度、個人的な経験を参照します。ベンツ社で働いていた頃の話に戻りますが、世間の基準からすると非常に裕福な人たちに会う機会があり、その多くが私の友人になってくれました。しかし、彼らは私が知る限り、最も惨めな人々でした。いや、当時私は20代で、若くて、髪もあったし。彼らと知り合って、私は若いから、よくわからないし、この人たちは、本当に幸せなんだろうなと思ってました。実は、最も惨めな人々たちでした。彼らはオフィスで、机を挟んで向かい側に座っていました。私が話すのはコミッションのことだけで、それだけを話したいのです。彼らの方は、離婚裁判の話をしたいのです。子どもたちが、自分と関わりを持ちたがらないことについて、話したいのです。何度か、主がミニストリーの機会として、裕福な人たちと一緒に祈る特権を与えてくださったことがあります。というのも、彼らは診断を受けたからです。もは

や、お金の問題ではなくなります。とんでもない卑語や、「不倫はケリをつけ方がいい」とか聞くと、世界中のお金を手に入れることができても、関係ありません。富のむなしさです。しかし、彼らは難しい方法で学ぶと思います。というのは、聖霊によるヤコブは、さらに生々しくなります。この聖なる強さが必要なのかもしれません。

「あなた方がしている事は基本的に、この富をすべて蓄積し、屠られるため自分を太らせている。」かなり生々しいイメージですね。しかし、ここから核心です。彼らは、この富を得るという名目で、人を非難し、殺害するに至っています。ヤコブが聖霊によって、こう言っていることに注目してください。「彼はあなたがたに抵抗しません。実際、彼らはあなたのために働いている。彼らはあなたに何もしていない。抵抗しているわけでもないのに、あなたは彼らにこんなことをするのですか?」「金銭を愛することはあらゆる悪の根源。」は、本当ですね。殺人という悪さでも…

あえて中絶の話を持ち出しますが、どれだけのお金が動くか、知っていますか? ここは注意して話さねばなりません。その理由はおわかりですね。そして、締めくくりたいと思います。今、彼らはそれをしていいます。彼らは人々を殺し、そこに数兆ドルが動いています。ヤコブが書いている加害者たちは、文字通り、誇張ではなく、今、人々対してしていることで何兆ドルも稼いでいます。これで話を元に戻します。これを教訓として締めくくります。なぜこのような生々しい文章がこの手紙の中にあるのか? この手紙には合わない気がします。これが私にとっての答えです。修辭的にですが、お聞きしてもよろしいでしょうか。あなたが最初にこれを読んだとき、ヤコブが書いている「屠られる日のために自分の心を太らせました。」という言葉に、違和感を感じたのではないのでしょうか? 待ちきれません…ただ… 私も、「太る」という部分には気をつけないといけません… つまり、連れ戻されましたか? 読み進めるのを止められませんでしたか? 「えっ…??」と。どうしてですか? なるほど、そういうことだったのか。それは、4 節にしっかりと書かれています。「刈り入れをした人たちの叫び声は、万軍の主の耳に届いています。」だからこそ、これが聖書に書いてあるのです。だからこそ、聖霊がヤコブにこれを書かせられたのです。なぜなら、こんにちの私たちは、これらの邪悪な抑圧者のために、非常に似たような形で主に叫んでいるからです。感謝なことに、主だけがお出来になるように、いつもご忠実に、最後には私たちの叫びの声に耳を傾けてくださるのです。最終的な判断は神がなさります。もう少しご辛抱ください。もう少しで終わります。休みの間、私は断食し、祈りながら、主と共に多くの時間を過ごしました。メディアも断ちました。一ヶ月間、全ての画面はオフでした。だから、もし私がキョロキョロしているのに気づいたら、その理由がわかるはずですよ。— (笑) — ただ主に集中したかったのです。メインのパソコンに聖書プログラムの画面だけを表示させました。それだけです。私はただ、主を求め、主とともにいて、主に叫びたかったのです。その叫びの一つは、「主よ、あとどれくらいですか?」ダビデが詩篇に書いたように、「主よ、いつまでですか?」です。「いつまでですか?」「いつまで、彼らがやっていることを放っておくのですか?」それは殺人です。大虐殺です。ああ、主よ! それはすべてお金のためです。私たちはこのように言っています。「お金を追え!」それがこの背後にあるものです。巨額のお金の話です。そして、神はこのような時のために、ヤコブを促されたのだと思います。皆さんの励みになればと思うのですが、これは私の心を落ち着かせました。つまり、ヤコブ 5 章の 1 節から 6 節のような箇所を読むと、彼らに対しての怒りが、同情に変わるのです。彼らは屠殺されるために、太っているのです。お金はすべて、腐ってしまいます。裁きの日には何の役にも立ちません。彼らが築き上げた富と、その方法。それを手に入れるために、人々に行われた悪事。しかも、それでも逃げ切っているように見えます。もうひとつの表現

は、「儲かりすぎて笑いが止まらない。」いや、もう笑ってはいられなくなります。「牧師さん、それはちょっと…あなたは彼らに襲いかかる裁きを喜んでいるのではありませんか？ 主でさえも、悪人を罰することを喜ばないと言っておられます。あなたは、喜んでいるの？」いいえ。説明しましょう。そうでしょう？ 説明することがあるでしょ？ いや、正しい裁きというものがあるのです。なぜなら、神のさばきは真実であり、アーメンであり、正しいからです。もう一度、詩篇 73 篇とエレミヤ 12 章を参照してください。この二つに共通しているのは、神が彼らにその終わり、彼らの最期を見ることを許されたということです。そして、最後の結末を見たとき、彼らは「分かりました」となったのです。

「私は彼らに怒ってはいません。彼らをうらやましく思いません。彼らを本当にかわいそうに思います。彼らのために祈ることさえあるかもしれません。」

いやあ、なんという斬新な発想でしょう。なぜなら、彼らはイエスを必要としているからです。もし、これから起こることを知ったら、彼らは泣き、嘆き、嘆くことでしょう。

最後にもう一つ。以前にも言ったことですが、何度言ってもいいと思いますし、これを言えば私の言いたいことがわかると思います。もし彼らがまだ完全な人間なら、まだ遅くはないでしょう。もし彼らがまだ DNA 的に完全に人間であるならば、まだ彼らにとって手遅れではないのです。彼らはまだ救われることが出来るのです。この人たちの見方を変えるべきです。皆さんは誰のことかお分かりですね。

今、あなたの頭に彼らの顔が浮かんでいるはずですよ。私は、あなたの心を読むことができるので。— (笑)

— もし彼らがまだ完全に人間で、DNA も人間の DNA のままなら、まだ救われることができます。

彼らはイエスを必要としているのですから、指をくわえて見ているだけではいけません。彼らのために手を挙げて祈りましょう。彼らはイエスを必要としています。お立ちください。レイトゥ牧師に出てきてもらい、歌で締めてもらいます。

天なる御父よ、これは厳しい節です。教えることは難しいですが、受けることも困難だと分かっています。しかし、ああ、主よ、それがいかに必要であるか。特に今の世界で起こっているすべてのことを考えると....

主よ、あなたが義であられることを感謝します。いわば、決着をつけてくださることに感謝します。あなたのさばきは正しく、公平で真実であることを感謝します。

主よ、あなたが最終的な決定権を持っておられることに感謝します。それが私たちの心を落ち着かせます。それを知ることで、落ち着くことができます。私たちはそれを待ちます。主よ、私たちはそのためにあなたを待ちます。私たちは、ただただ、マラナタ！ と祈ります。主よ、早く来てください、イエスの御名によって、アーメン。

---

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7